

1. 科目名（単位数）	児童・家庭福祉論Ⅱ（2単位）	3. 科目番号	SJMP3101 SSMP2303 SCMP2303
2. 授業担当教員	祐東 孝好		
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーションなどを取り入れた形態を重視する。	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、児童・家庭福祉論で学んだ、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動などを復習した上で、児童・家庭福祉論Ⅱでは、子ども家庭にかかわる福祉・保健政策について、とりわけ子どもの貧困など、グループでテーマを設定した上で、学習を進め、成果を発表する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。授業の進め方は、授業開始時に分けたグループでの研究が基本となる。また、学生が授業運営に参画する度合いを増やす。		
8. 学習目標	・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性、児童家庭福祉の制度の全体像を理解し、説明ができる。 ・グループでの研究を通じて、文献の読み方、資料の集め方、調査の方法を理解し、活用できるようにする。 ・グループでの研究を通じて、研究の目的、方法、結論、考察をいった手順を活用できるようにする。 ・グループでの発表を通じてプレゼンテーションの方法を身につける。 ・その他、文章の要約方法、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。		
9. アサインメント（宿題）及びレポート課題	1. 授業の最後に講義のまとめをして提出します。 2. レポート課題を課します。内容については講義の中でお知らせします。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 『最新社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉』 中央法規出版、2021 年。 【参考書】 福祉小六法編集委員会 編『福祉小六法』（株）みらい、2022 年版		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性、児童家庭福祉の制度の全体像を理解し、説明ができる。 2. グループでの研究を通じて、研究のスタイルを理解し、活用することができる。 3. 発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につけ、活用することができる。 ○評定の方法 授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的参加（調査・ディスカッション・発表） 総合点の40％ 2. 日常の学習状況（小テスト・小レポート・学外調査・提出物） 総合点の30％ 3. 課題レポート 総合点の30％		
12. 受講生へのメッセージ	授業を通して基本的な事柄について学びます。その学んだことを現場に出た時に生かせるよう、乳幼児から高齢者までの社会福祉について身につけましょう。 授業への出席はもとより、授業への参加、ディスカッションやレポート作成等積極的に取り組んでください。 1. 遅刻、欠席のないようにする。やむを得ず欠席する(した)場合は速やかに書面で届け出る。 2. レポートの提出期限を厳守する。提出期限後の提出は減点します。 3. 私語や居眠り、学習のテーマ以外の作業、携帯電話の使用、その他授業の妨げとなる行為は、平常点より減点します。		
13. オフィスアワー	初回の授業でお知らせします。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	・シラバスを確認する。 ・第1章「子ども家庭福祉とは何か」 第1節「子どもの権利」 第2節「子どもの姓名と発達」 第3節「子どもと家庭・地域」	事前学習	・シラバスを確認する。 ・教科書 pp. 1～18 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第2回	・第1章「子ども家庭福祉とは何か」 第4節「子ども家庭福祉とは」 ・第2章「子ども家庭福祉の歴史」 第1節「慈善・恩恵から権利保障へ」 第2節「子どもの権利擁護の変遷」	事前学習	・教科書 pp. 19～32 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第3回	・第2章「子ども家庭福祉の歴史」 第3節「子ども家庭福祉と現代社会」 ・第3章「子ども家庭を取り巻く現代社会」 グループ分け・発表準備	事前学習	・教科書 pp. 33～46 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第4回	・第3章「子ども家庭を取り巻く現代社会」 グループ発表	事前学習	・第3章「子ども家庭を取り巻く現代社会」 グループ発表の準備をする。

		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第5回	・第4章「子ども家庭福祉の支援の基盤」 第1節「子ども家庭福祉の法体系」 第2節「子ども家庭福祉の実施体制」 第3節「子ども家庭福祉にかかわる関係機関」	事前学習	・教科書 pp. 47～70 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第6回	・第4章「子ども家庭福祉の支援の基盤」 第4節「子ども家庭福祉の財源と費用負担」 第5節「子ども家庭福祉の人材と専門職」 第6節「子ども家庭福祉の計画的推進」	事前学習	・教科書 pp. 71～86 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第7回	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第1節「子ども・子育て支援」 第2節「母子保健」	事前学習	・教科書 pp. 87～106 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第8回	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第3節「保育」 第4節「要保護児童と在宅支援」	事前学習	・教科書 pp. 107～121 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第9回	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第5節「児童虐待にかかわる支援」 第6節「社会的養護」 グループ発表準備	事前学習	・教科書 pp. 122～137 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第10回	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第6節「社会的養護」 グループ発表	事前学習	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第6節「社会的養護」 グループ発表の準備をする。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第11回	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第7節「ひとり親家庭への支援」 第8節「ドメスティック・バイオレンスと女性支援」	事前学習	・教科書 pp. 138～153 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第12回	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第9節「スクールソーシャルワーク」 第10節「少年非行」 第11節「若者支援」	事前学習	・教科書 pp. 154～175 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第13回	・第5章「子どもの福祉課題と支援」 第12節「障害のある子どもへの支援」 第13節「ソーシャルアクション」	事前学習	・教科書 pp. 176～192 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第14回	・第6章「子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践」 序説「子どもの家庭福祉におけるソーシャルワーク」 第1節「子ども家庭福祉の支援の端緒と調査」	事前学習	・教科書 pp. 193～201 を熟読し、理解を進めておく
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
第15回	・第6章「子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践」 第2節「子ども家庭福祉におけるソーシャルワーク」 第3節「子ども家庭福祉における支援の展開過程と連携」	事前学習	・教科書 pp. 202～209 を熟読し、理解を進めておく。
		事後学習	授業中に読解した内容や行った作業・演習等についての要点をまとめる。
期験に代わるレポート有り			